

# 専 門 実 践 教 育 訓 練 明 示 書

講座の名称	経営学研究科専門職学位課程現代経営学専攻													
実施方法	通学（夜間）													
指定講座番号	7	8	0	1	4	—	1	4	2	0	0	1	—	8
講座の創設年月日	専門実践教育訓練給付金対象講座の指定期間				過去一年の講座実績			入講者数( 72人)			修了者数 ( 72人)			
平成15年4月1日	令和5年9月30日まで													
訓練期間	18ヶ月						総訓練時間			510時間				
1. 教育訓練目標														
①取得目標とする資格の名称、目標レベル					<input type="checkbox"/> 業務独占資格・名称独占資格 ( ) <input type="checkbox"/> 職業実践専門課程 ( ) <input type="checkbox"/> キャリア形成促進プログラム ( ) <input checked="" type="checkbox"/> 専門職大学院 (経営学修士(専門職)) ( ) <input type="checkbox"/> 職業実践力育成プログラム ( ) <input type="checkbox"/> 情報通信技術関係資格 ( ) <input type="checkbox"/> 第四次産業革命スキル習得講座 ( ) <input type="checkbox"/> 専門職大学、専門職短期大学、専門職学科 ( )									
					教育訓練を通じて取得を目指す上記以外の資格等									
②①に係る資格・試験等の実施機関名称					国立大学法人 神戸大学									
③当該資格等を取得するための要件または受験資格等					当該課程に2年以上在学し、所定の単位(34単位以上)を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、専門職学位論文の審査及び最終試験に合格することとする。上記の規程にかかわらず、短期履修コースに所属する者は、在学期間に関しては、1年6ヶ月以上在学すれば足りるものとする。									
④当該技能・知識の習得が必須又は有利となる職種・職務及び習得された技能・知識が活用されている業界と活用状況					当該課程の教育を受けることにより、経営課題を解決するための発想法、判断能力、スキル、コミュニケーション能力を身につけ、産業界におけるビジネスリーダー(高度専門職業人)として日本のビジネス社会で活躍している。									
2. 教育訓練の内容														
教科 (カリキュラム)							時間			使用教材名				
修了要件														
ケースプロジェクト研究、テーマプロジェクト研究、現代経営学演習を除く 授業科目 22単位以上							330時間			シラバス参照のこと。				
ケースプロジェクト研究 2単位							30時間			シラバス参照のこと。				
テーマプロジェクト研究 2単位							30時間			シラバス参照のこと。				
現代経営学演習 8単位							120時間			シラバス参照のこと。				
合計 34単位							510時間							
3. 受講者となるための要件(この講座を受講するために必要とされている条件など)														
①受講するに当たって必要な実務経験等					民間企業、政府機関、自治体などに在職し、1年以上の実務経験を持つ者。									
②受講者が受講に最低限有しておくべき資格・技能・知識等の内容及びその水準					大学を卒業した者または本研究科において大学を卒業した者と同等に学力があると認められた者。									
③その他														
〔特記事項〕														

# 専門実践教育訓練明示書

## 4. 教育訓練の受講の実績及び目標達成の状況

### (1) 資格取得状況

① 前年度の修了者数	72	人			
② ①に係る教育訓練の入講者数	72	人			
③ ②のうち目標資格の受験者数	72	人	受験率(③/②)	100.0	%
④ ③のうち合格者数	72	人	合格率(④/③)	100.0	%
⑤ ①(修了者数)のうち就職者数 ※1	0	人			
⑥ ①(修了者数)のうち在職者数 ※2	72	人	就職・在職率(⑤+⑥/②)	100.0	%

※1 前年度の修了者のうち、受講開始時に職に就いていなかった者で修了後に就職した者。

この場合、就職したとは、臨時的な仕事に就職した者は含めない。

※2 受講開始時に既に職に就いていた者で、卒業後も引き続きその職にある者及び受講開始時に既に職に就いている者で、修了後に別の職に転職した者。

### (2) 受講修了者による講座の評価等

① 回答者総数	25	人			
② 受講開始時の就業状況等	1 正社員	25	人	②A: 就業者計	25
	2 非正社員、派遣社員	0	人		
	3 その他の就業(自営業等)	0	人	②B: 非就業者計	
	4 非就業	0	人		
③ 就業中の受講者による講座の評価	1 処遇の向上(昇進、昇格、資格手当等)に役立つ	7	人	③の回答数合計 ※②Aと同数(又はそれ以下)	25
	2 配置転換等により希望の業務に従事できる	3	人		
	3 社内外の評価が高まる	6	人		
	4 円滑な転職に役立つ	4	人		
	5 趣味・教養に役立つ	1	人		
	6 その他の効果	3	人		
	7 特に効果はない	1	人		
④ 就業していない受講者による講座の評価	1 早期に就職できる	0	人	④の回答数合計 ※②Bと同数(又はそれ以下)	0
	2 希望の職種・業界で就職できる	0	人		
	3 より良い条件(賃金等)で就職できる	0	人		
	4 趣味・教養に役立つ	0	人		
	5 その他の効果	0	人		
	6 特に効果はない	0	人		
⑤ 受講者の就業状況	1 受講中又は受講修了後3か月以内に就職した	0	人	⑤の回答数合計 ※②Bと同数(又はそれ以下)	0
	2 受講修了後3～6か月以内に就職した	0	人		
	3 受講修了後6～12か月以内に就職した	0	人		
	4 就職していない	0	人		
⑥ 講座の全体評価	1 大変満足	20	人	⑥の回答数合計 ※①と同数(又はそれ以下)	25
	2 おおむね満足	5	人		
	3 どちらとも言えない	0	人		
	4 やや不満	0	人		
	5 大いに不満	0	人		

(3) 受講者、受給者の修了後の状況(就職等の状況、受講修了者による教育訓練への評価状況、受講後の職務内容変化等の処遇改善の状況、一定期間内でのキャリアアップ成果やその事例、在籍・採用企業の側の評価等)

## 5. 教育訓練の受講による効果の把握及び測定の方法並びにそのレベルを受講者に対して明らかにするための具体的な方法

1に掲げた教育訓練目標に対する技能・知識のレベル到達度の把握・測定方法	
(通信制講座の場合)	
スクーリングの実施場所、時期、期間・回数	

# 専 門 実 践 教 育 訓 練 明 示 書

<b>6. 受講効果の把握方法</b>			
(1) 受講認定基準 (6ヶ月ごとの出席率・定期試験、進級試験等の具体的基準)	授業科目の成績は、授業科目毎に定められた成績評価方法により、100点満点として、秀、優、良、可、不可の5つの区分により評価する。秀(90点以上)、優(80-89点)、良(70-79点)、可(60-69点)を合格、不可を不合格とする。		
(2) 受講認定基準に係る、教育目標に対する技能・知識のレベル到達度把握・測定方法	上記の教育訓練の内容に挙げる授業科目の成績評価は、期末試験・中間試験・随時的小テスト・レポート・平常点・その他の方法のうちの一つにより、又はそのうち複数の方法を組み合わせて行う。		
(3) 修了認定基準 (出席率・修了認定試験等の具体的な基準)	専門職学位課程の修了要件は、当該課程に1年6ヶ月以上在学し、所定の単位(34単位以上)を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、専門職学位論文の審査及び最終試験に合格することとする。		
(4) 修了認定基準に係る、教育目標に対する技能・知識のレベル到達度把握・測定方法	講義、演習等の履修によって34単位を修得させ、専門職学位論文審査を通じて技術知識のレベルの到達度を把握・測定している。講義等は、レポート・プレゼンテーション・グループワーク・筆記試験により評価を行っている。演習は、プロジェクト方式により、レポート・発表・議論への参加によって評価しているが、その最終結果は、専門職学位論文で厳正に審査している。		
<b>7. 受講中又は修了後における受講者に対する指導及び助言並びに支援の方法</b>			
(1) 受講中の者に対する習得度・理解度に関する具体的な助言・指導の方法	少人数教育であり、習得度、理解度をディスカッションや小テストを通じてチェックし、その都度改善を図っている。またビジネスの具体的問題にソリューションを与える能力を養成することに重点を置いている。		
(2) 受講中又は修了時における資格取得・就職への具体的なバックアップ体制 (例: 資格取得関連情報や資格関連職種の求人情報の提供方法、早期就職に向けた具体的な相談体制の整備状況)	受講中におけるバックアップが、そのまま資格取得へのバックアップである。また、有職者を入学の条件としているため、就職へのバックアップは特に行っていない。		
<b>8. その他の事項</b>			
指定教育訓練実施者名及び代表者名	(代表者名: 学長 武田 廣 ) 国立大学法人 神戸大学		
住所及び連絡先	兵庫県神戸市灘区六甲台町1-1		TEL 078-881-1212
施設名称及び施設長名	(施設長: 学長 武田 廣 ) 国立大学法人 神戸大学		
住所及び連絡先	兵庫県神戸市灘区六甲台町1-1		TEL 078-881-1212
苦情受付者	氏名 村尾 ノ木岳 所属 経営学研究科学部・大学院教務グループ	事務担当者	氏名 橋本 賀津子 所属 経営学研究科学部・大学院教務グループ
連絡先	TEL:078-803-7260		連絡先 TEL:078-803-7258
専門実践教育訓練経費	1. 専門実践教育訓練給付金の対象となる経費 (① + ②)		1,085,700 円
支払い方法	① 入学料 (税込額) (※割引・還元措置を実施した場合にはその差引き後の税込額とすること。)		282,000 円
① 一括払	② 受講料 (税込額) (※割引・還元措置を実施した場合にはその差引き後の税込額とすること。)		円
② 分割払	(うち、必須教材費)		円
③ 両方可能	第1期 267,900 円		円
	第2期 267,900 円		円
	第3期 267,900 円		円
	第4期 円		円
	第5期 円		円
	第6期 円		円
	(うち、必須教材費)		円
	2. 専門実践教育訓練給付金の対象外となる経費 (① + ② + ③ + ④)		0 円
	① 任意の教材費(税込額)		円
	② 実習等に伴う交通費・宿泊費(税込額)		円
	③ 施設維持費(税込額)		円
	④ その他(法人への寄付金、PCの損害保険料、情報誌代) (税込額)		円
	3. 総額 (1+2) (税込額)		1,085,700 円

## 教育訓練給付制度の適正な利用に必要な事項について

教育訓練給付制度を適正に利用していただくために、以下の点について十分にご理解いただくようお願いいたします。

(1) 専門実践教育訓練給付金の支給対象となる教育訓練経費とは、受講者が自らの名において直接専門実践教育訓練実施者に対して支払った教育訓練の受講に必要な入学料及び受講料に限られます。

(2) 受講料には、受講費のほか、受講に伴い必須となる教材費用等も含まれますが、検定試験受験料、補助教材費、補講費、交通費、パソコン等の器材費等は含まれません。また、クレジット会社に対する手数料、支給申請時点での未納の額（クレジット会社を介してクレジット契約が成立している場合を除きます。）も教育訓練経費に含まれるものではありません。

(3) 現金等（有価証券等を含みます。）や物品の還元的な給付その他の利益を受けた場合や、各種割引の適用を受けた場合には、その還元的な給付額や割引額等を差し引いた額が教育訓練給付金の対象となる教育訓練経費となります。

このため、このような還元的な給付等を受けた場合には、入学料及び受講料の額から当該還元額を控除した額で教育訓練給付金の支給を申請することが必要になります。

なお、当該教育訓練経費に係る領収書又はクレジット契約証明書の発行後、受講料の値引き等により教育訓練経費の一部の還付が行われた場合には、教育訓練給付金の支給申請に際しては、教育訓練実施者が受講者に発行する、還元額等が記載された「返還金明細書」の提出が必要となります。

(4) 専門実践教育訓練給付金は、当該教育訓練を実際に本人が受講し、修了した場合支給されるものです。このため本人以外の者が受講し、修了等した場合には、専門実践教育訓練給付金は支給されません。

また、当該教育訓練の定期的な試験又は修了試験に際して、あらかじめ解答が添付されている場合等にあっては、当該教育訓練を修了する見込みがあるもの又は修了したものとは認められていませんので、専門実践教育訓練給付金の支給を受けることはできません。